

会 議 録

会 議 の 名 称	平成 2 7 年度第 1 回行田市男女共同参画推進審議会	
開 催 日 時	平成 2 7 年 6 月 3 0 日 (火) 開会；午後 3 時 0 0 分・閉会；午後 4 時 4 5 分	
開 催 場 所	行田市男女共同参画推進センター 学習室	
出席者（委員） 氏 名	田代美江子委員（会長）、山崎孝子委員（副会長）、井上文子委員 茂木美智代委員、山岸泰輔委員、小林澄江委員、筆 容三委員、 西山カツ枝委員、高橋由美委員、吉田 哲委員、川村達也委員、 松島 弘委員、大野久美子委員、（名簿順、敬称略）	
欠席者（委員） 氏 名	松村隆史委員	
事 務 局	岡田安弘（所長）、石崎益美（主査）	
会 議 内 容	(1) 平成 2 6 年度男女共同参画推進事業実施報告について (2) 第 3 次ぎょうだ男女共同参画プラン進捗状況調査結果について (3) 平成 2 7 年度男女共同参画推進事業実施計画について (4) 各種団体等への委員の選出について	
会 議 資 料	・平成 2 6 年度 事業概要 ・第 3 次ぎょうだ男女共同参画プラン進捗状況調査結果 ・平成 2 7 年度男女共同参画推進事業実施計画 ・委員推薦依頼文の写し ・平成 2 7 年度男女共同参画推進審議会スケジュール（案）	
そ の 他 必 要 事 項	傍聴者なし	
会 確 議 録 の 定	確 定 年 月 日	主 宰 者 記 名 押 印
	平成 2 7 年 8 月 3 1 日	田代美江子 

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
司会	・開会 ・会長あいさつ ・新委員の紹介 ・市職員紹介、事務局職員異動の報告 ・配布資料の確認 ・議長の選出（会長）
議長	・それでは、議長を務めさせていただく。 ・委員の交代があったことから、一人ずつ自己紹介を実施する。 ・本日の会議は委員の過半数が出席しており会議は成立している。 ・まず、事務局に確認する。本日の会議において非公開とする事項はあるか。
事務局	・非公開とする事項はなく、会議の傍聴希望者もない。
議長	・次第に基づき議事を進行する。 ・議事の（１）平成２６年度男女共同参画推進事業実施報告と（３）平成２７年度男女共同参画推進事業実施計画について事務局に説明を求める。
事務局	（会議資料、「平成２６年度事業概要」の細部説明）
議長 （田代委員）	・事務局から説明があったが、委員から意見、質問などあるか。 ・「女性に対する暴力をなくす運動のつどい」参加者について。講演とミニコンサートは、それぞれ別の方々が参加しているのか？それとも、ミニコンサートと抱き合わせといった工夫をしているのか。
事務局	・講演の受講者がミニコンサートにも参加している。ミニコンサートだけに参加している方も居り、それぞれの参加者の数を掲載した。

井上委員	・「男性料理教室」の１回目は土曜日だが、２，３回は平日開催だった。参加者は、高齢者か。若年層の参加はあるのか。 ・休日の方が個人的には参加し易いが、自営業者が講師となると、やはり、店の休業日（平日）に開催ということになるのか？ ２７年度の開催日程は、どうなっているのか？ ・当初の事業対象者は、どんな人たちを念頭に入れていたのか。
事務局	・比較的、年齢層は６０歳代から７０歳代の方が多い。 ・事業開始当初は、やはりリタイヤした方を対象に家庭への参画をねらいとしていたようである。
大野委員	・調理室利用者延べ人数 5,723 人とあるが、男性料理教室以外でどんな団体が利用しているのか。
事務局	・JA ほくさい女性部や各地域公民館のパン作り教室、幼稚園主催の保護者を対象としたおやつ作り教室等が挙げられる。
川村委員	・相談事業について、昨年と比較し件数と具体的な相談内容はどうか。 ・VIVA の年間利用状況は、例年と比較し増減はどうか？
事務局	・相談件数は、例年１００件前後で、若干増えている。内容は、資料のとおり。 ・VIVA の利用者数は、微増である。
山崎委員	・平成２５年度の審議会で、「市役所管理職を対象とした参画研修の実施」が課題として挙がり、平成２６年度に田代委員が講師となり実施されたが、どんな感触であったか？

議長 (田代委員)	・出席者は31名。管理職員数の1/3程であった。しかし、数こそ少ないが皆、熱心に受講していた。強制的に出席という形ではなかった。女性の出席者がいなかった。そもそも、女性管理職がいないのか？
山崎委員	・欠席者には、資料配布等行っているのか？ ・出席者は、ただ聞いているだけか？講義の感想等は書かせているのか？
事務局	・資料は、後日、配布している。 ・課長以上の管理職員は、女性は2名程である。 ・出席者には、研修会終了後にアンケートと感想を書いて貰っている。
議長 (田代委員)	・去年の審議会で研修会のアンケート結果や感想について報告していたと思う。
西山委員	・男女共同参画人材リスト登録事業について。12名とあるが、どういう方々が登録しているのか？また、数は増えているか？
事務局	・男女共同参画に関する講座やセミナー等の講師をお願い出来る方である。数は、増えていない。
議長	・次に、(3) 27年度事業について、事務局より説明する。
事務局	(会議資料、「平成27年度男女共同参画推進事業実施計画」の細部説明)
議長	・事務局から説明があったが、委員から意見、質問などあるか。

吉田委員	・男女共同参画人材リスト登録事業。平成27年度、増やしたいのか？どう活用したいのかが見えない。このリストは、どこで閲覧できるのか？増やすとしたら、どんな方策に取り組むのか見えない。
事務局	・VIVA主催の講座やセミナー等の講師をお願いしている。 ・人材リストは、VIVA事務室に保管してあるので、窓口で声掛け願いたい。
議長	・市民が何か講座を企画・開催したい時に、VIVAに相談すればどんな人材がいるか紹介して貰えるということによいか。 ・人材を増やすための方策は、何か考えているのか？ ・登録事業で、人材がどのくらい活用されたかというのも、27年度事業実績報告の時に併せて報告があるとよいと思う。26年度実績は？
事務局	・随時、市民からの相談を受け付ける。 ・市報や情報紙「VIVA」において、新たな人材募集をしたい。 ・27年度事業報告時には、人材活用実績を載せたい。 ・26年度は、VIVAセミナーで2名に講師をお願いした。
筆委員	・情報紙『VIVA』の配布方法は、自治会経由で全戸配布ということだが、長野地区は4,600戸程度のうち600世帯は自治会に加入していない。ゆえに、実際は全戸配布となっていない。加入していない世帯は、市の情報が伝わり難い。また、例え問題を抱えていても相談に繋がりにくいと懸念される。市が『全戸配布』としている全ての書類がそういった具合だ。公民館に市報を定期的に取りに来る人もいるが、自治会に入っていない世帯でも、市の情報を得られる方法があればと思う。 ・若い世帯は、お金がないから自治会費が払えない。だから自治

	会に入らないという理由が考えられる。
松島委員	・自治会費などたかが知れていると思うが、持田地区でもアパートや分譲地に越してきた場合など、加入しない世帯が増えている。
吉田委員	・行田市の自治会加入率は、85.2%程度である。隣の熊谷市と比べれば高い方だが、市政に関心が無いから加入しないのだと思う。
議長 (田代委員)	・欧米のように、コーヒーショップやコンビニのような場所で公共情報が受け取れるといいと思う。
事務局	・情報紙「VIVA」は年2回の発行だが、相談事業の情報は、毎月、市報に掲載している。
議長	・情報紙「VIVA」の今回の特集は、男女共同参画の視点でどんなことを意識しているのか？
山崎委員	・私は、編集委員の一人である。今回の特集では、「職人わざ」をテーマに、夫婦で「草木染」、姉弟で「観音彫り」を、それぞれ地道に伝統工芸を守っている人たちを取上げる。
大野委員	・女性活躍推進事業、どんな内容？広報に載せるのか？
事務局	・様々な企業に声掛けし集まって頂き、女性活躍推進の施策等を話し合う。セミナーについては、その都度、受講者募集を市報に掲載する予定である。
松島委員	・管理職員研修、出席率が1/3程度じゃなくて、もっと沢山出席

	するような働きかけが必要だ。DV 予防講座も。 ・フォーラム、またお手伝いするのか？参加者が僅かでは手伝いの甲斐がない。
議長	・管理職員研修の皆川氏、デート DV 予防講座の西山氏 共に良い講師である。
茂木委員	・相談事業について。結果として『相談件数』が出ているが、離婚問題等が起きてから相談に来る前に、より良い夫婦関係の築き方とか、気軽に相談につながるための講演等あればと思う。『VIVA ぎょうだ』が何をやっているのか、一般の方々にはわからない。
事務局	・今年度は『デート DV 予防講座』等で、若者向けの学習機会を設けた。小学校高学年頃から、どんなことが DV にあたるのか、何故 DV がいけないのかを定期的に学習することは、青年期以降の DV 被害・加害の予防に繋がる。
茂木委員	・若者の教育も大事だ。しかし、夫婦間で悩んでいる状態の人がもうちょっといい方向に行けるような対策を考えて欲しい。
議長	・前の審議会でも同様の意見を出されていたと思うが、講座の中で「DV に陥らないための良い関係作り」を開催するというイメージか？
茂木委員	・夫婦間は、ちょっとしたことが原因で考え方にズレが生じる。見方を変える等の方法で、夫婦関係を改善できていると思っている。
議長	・子育て中の夫婦に向けた講座は多いが、夫婦関係にクローズアップした講座は珍しいし、良い案だと思う。

松島委員	・2人の相談員は、専門家なんだから相談者だけにアドバイスするのではなく、自身の相談経験を生かし、公民館など公の場に人を集めて講座を実施したらどうか。個人情報伏せた形で事例を挙げて具体的なアドバイスをすれば効果が大きいのではないと思う。
茂木委員	・昨年度の警察署員の講座は、遠まわしな言い方で現実味が薄かった。より具体的な方が、参加者も興味深く聞けると思う。
議長	・夫婦間のコミュニケーション術を学んだり確認し合う機会のことをおっしゃっているのか？（茂木委員が）ご自身で夫婦参加型講座を企画されても面白いのではないかと？
山岸委員	・夫婦参加型講座は良いと思うが、問題を抱えている夫婦ほど、夫婦単位での参加が難しい。色々な体験をされた方がワークショップ形式喋り合って、発散できる場があっても言いと思う。
西山委員	・離婚件数46件あるが、どんな理由が多いか？性格の不一致とかか？
事務局	・これは、（離婚成立件数ではない）相談内容が離婚を主訴としているものである。離婚相談の理由は、「性格の不一致」などといった軽いものではない。夫のDVが原因で、これ以上、共同生活の維持が困難であると悩んだ末の離婚相談である。ゆえに、様々な理由を孕んでいる。 ・茂木委員の案は、今後、検討する。
議長	・男性がDV被害者になるケースも年々増えているので、今後、男性を対象にした講座があってもいいかも知れない。 ・今後も、引続き何かあったらお願いしたい。

議長	・次に議事の（２）第３次ぎょうだ男女共同参画推進プラン進捗状況調査結果について、事務局に説明を求める。
事務局	・資料の修正箇所とプランの進捗状況調査結果について説明する。 （会議資料、「平成２６年度分第３次ぎょうだ男女共同参画推進プラン進捗状況調査結果について」の細部説明及び調査における評価方法、基準等について補足説明）
議長	・前回の審議会の際に、評価しやすい回答方法にしようと、調査票の見直しを行った。添付資料の『調査票：参考』は、この調査票の見方を示したものである。 ・今回配布した『スケジュール表』の中に、「各課ヒアリング」が含まれている。前回の審議会で「芳しくない回答をしている課を対象にヒアリングを行ったらどうか？」という意見が出た。調査票の回答を見て、「是非、ヒアリングしてみたい」、「もっと具体的に聞いてみたい事柄」などご意見があれば承りたい。また、今回から回答項目が増えたので、率直な感想も伺いたい。
吉田委員	・膨大な仕事を行政がやっているわけだが、このプランには重点施策と恒常業務が混在しているので、仕分けるべきだ。 ・数値目標を設定すれば、それに対する結果が出るから、評価もしやすい。実績が「努めた」ではどのように努めたのか分からない。 ・地域づくり支援課の施策で『自治会等の役員改選の際は女性登用を依頼する』という目標があるが、依頼されたことがない。 ・環境課は、同じパターンで同じ回答を書いている所が複数ある。これは、重点と恒常の仕分けが出来ていないからだ。
議長	・例えば、計画で『男女共同参画の視点に立った計画の策定』という目標があったが、抽象的過ぎて分からなかった。今までこ

	の様な表記が大多数だったが、多少は改善されてきていると思う。また、数値だけでは成果を表せない事業もある。 ・プランを正確に読めば、どの施策をどこの課がどんな計画を立てて遂行するかは分かると思うが、各課とも担当者がきちんと理解して回答を作っているのか、管理職はチェックしているのか見えないところもある。
事務局	・担当の意見ではなく、課毎に決裁し提出されているはずである。
吉田委員	・実績って言うのは、もっと簡単に表せると思う。計画に数値目標を設定して、それを、いつ、どんな方法で実施したかだから。
西山委員	・南河原保育園は、他の園と回答に差がありすぎる気がする。 ・『ジェンダー』って大枠で乗せているから、分かり辛い。
議長	・事務局は、毎年、説明をつけて調査依頼しているわけだが。プランのどこが（保育園の）課題に該当していて、自分達は何を評価しなきゃならないのか分かっていないのではないか。
川村委員	・このプランは10年計画で、28年は中間に当たるわけだが、目標値に対して年度毎にどこまで達成するか計画を立て、それを客観的に比べて行くべきだと思う。
議長	・「取りあえず提出しておけばいいか。」という課が毎年ある。ゆえに、適当に回答すると「ヒアリング」ということもあるということを各課に知らせ、こちらの意図を伝える必要がある。 ・2, 3絶対にヒアリングやったほうがいい部署と質問項目を決めて、実現できればと思うが。 ・簡潔に答えられない理由は、どんなことが考えられるか？

事務局	・事業課は、具体的な数字が出るから比較的回答しやすい。しかし、例規に基づいて業務遂行しているところは、『視点にのっとって』といっても表現が難しく、女性職員の居ない課もある。また、審議会等への女性委員の登用についても、構成員の資格要件があるので目標設定がどうしても低くならざるを得ない面があると思われる。
井上委員	・人事課の男性職員の育児休業に対する啓発活動のところで『制度に関するハンドブック』の配布とあるが、職員は読んだだけなのか？
議長	・人事課の回答内容は、以前に比べると良くなっていると思う。 ・さいたま市では、育児休業を取ると出世が出来ないという理由で（育児休業を）取る職員がいないと聞いた。育児休業を取らないと出世出来ない制度になればいいが。労働環境の改善も必要ということだと思う。
松島委員	・人事課の『ノー残業デーの実施』が実績無しとなっている。役所なんだから、課長が率先して「さあ、帰るぞ」ってことにはならないのか？
議長	・早く帰ると、翌日からの業務が増えるという理由が考えられる。しかし、『実績無し』はちょっと酷い。
吉田委員	・子育て支援課の事業の評価と実績の金額との関わりが見えない。一生懸命やっているなら A でも良いと思うが。
井上委員	・高齢者支援課の『施設設置』だが、計画が「予定はない」というなら、計画に載せるべきではない。

議長	・計画：周知徹底を図る　なら、結果：どんな方法で図ったのかというのが本来の回答方法。 ・最終的には、12月に審議会の意見をまとめることになる。資料も膨大なので、各委員には一旦、持ち帰って検討後、事務局に意見を寄せていただきたい。 事務局は、書き入れやすい枠をつくり委員に送って欲しい。 ・計画では10月にヒアリング予定だったが、今回初めてなので7月末を目途に事務局にヒアリング要望を寄せて集約したい。ヒアリングの内容を確認する時間はないが、ある程度決めて次回の審議会時にヒアリングできればと思う。 ・軌道に乗れば、来年度からうまくいくはずである。
議長	・次に議事の（４）各種団体等への委員の推薦について、事務局に説明を求める。
事務局	（行田市スポーツ推進審議会委員の候補者の推薦、行田市都市計画委員の推薦依頼書に基づき報告。それぞれ、前委員の推薦を事務局として提案する）
議長	・2件の委員推薦についてご承認いただけるか？
全委員	・承認する。
議長	・以上で議事はすべて終了した。事務局から何かあるか。 これをもって議長の任を解かせていただく。事務局に返す。
事務局	・閉会の言葉を山崎副会長に願います。
山崎委員	（閉会の言葉）